

令和2年3月25日

亀山市長
櫻井義之様

かめやま若者未来会議

まちづくりアイデア(政策提言)
～もっと、ずっと、ワクワクするような誇れるかめやまを目指して～
の提出について

かめやま若者未来会議において、まちづくりアイデア(政策提言)～もっと、ずっと、ワクワクするような誇れるかめやまを目指して～を取りまとめましたので、別紙のとおり提出します。

つきましては、若い世代にとっても、住みやすい、楽しいまち「かめやま」となるよう、共に実現に向けて取り組みを進めていただきますよう要望いたします。

まちづくりアイデア(政策提言)

～もっと、ずっと、ワクワクするような誇れるかめやまを目指して～

人口減少、少子高齢社会が進む中で、今後も亀山のまちを守っていくためには、若い世代の人たちにとっても、楽しく、快適に暮らしていけることが重要であり、これからもずっと暮らしていきたいと思うようなワクワク感が必要であると考えます。また、亀山のことを知ってもらい、訪れたいくなるようなまちにしていけることが、私たちのステータスやモチベーションにつながり、亀山を誇りに思い、大好きな亀山がもっと大好きになると思います。

このようなまちの実現に向けて必要な事項を下記のとおり、取りまとめました。行政だけ、市民だけが取り組んでも効果は一時的、部分的だと考えます。市としても積極的に取り組んでいただくとともに、私たちがその実現に向けて取り組みを進めてまいりますので、サポートをお願いいたします。

アイデア 1 情報発信

○課題

亀山市には豊かな自然(緑が多い、星空や川がきれい)や古いまちなみ・史跡(関宿・亀山城跡)など魅力的なところが多いとともに、関東と関西の文化が入り混じった独自の文化があり、私たちも知らない映える(バエる)スポットやコトがたくさんあると思います。また、訪れたいくなるような特色あるお店なども多く、ホッと落ち着くひと時が過ごせます。しかしながら、そもそも知らない、ネット検索しても出てこないなど、市民や来訪者が認知する機会に恵まれておらず、せっかくの亀山のよいところが見過ごされています。

○取り組み方針

- ・Instagram や Twitter など若い世代の人たちが利用しているSNS等で発信し、知ってもらう活動を進める。
- ・キャッチコピーをつけるなどの工夫をしながら“#(ハッシュタグ)”でつなげ、より多くの人に知ってもらう機会をつくる。
- ・投稿をまとめ案内マップを作り、亀山駅や観光案内所等に設置し、SNSを利用しない世代の方にも知ってもらう。

アイデア 2 若者の拠点・活動

○課題

亀山市には大市や納涼大会、関宿街道まつりなど伝統、そして馴染みのあるイベントがたくさんあります。イベントには、高齢の方や家族連れなど多くの市民が訪れて、楽しい交流の場になっていると考えています。しかしながら、若者同士での参加及び交流は少なく、若者がメインとなったイベントは少ないように感じます。

また、まちなかで若者が集える場所や若者の活動が少なく、市外に遊びに行ってしまうケースも多くあるのではないかと思います。

○取り組み方針

- ・若い世代が楽しめるイベントがあるのか、どのようなニーズがあるのかを調査するとともに、若い世代が楽しめるイベントを実施する。
- ・若者が集える場所を定期的に作り、若い人たちが交流できる場を設ける。
- ・若者の市政やまちづくりへの関心を高め、より意欲的に関わっていけるよう、まちづくりの推進にあたっては、若者の意見聴取ができるような仕組みを作る。
- ・かめやま若者未来会議の活動をより多くの人に知ってもらうため、イベントの実施や市内のイベント等の参加により活動内容を周知するとともに、広報などで活動をPRする。

アイデア 3 名物・物産・観光

○課題

亀山市には伝統ある和菓子やローソク、お茶などの地場産品、関宿、亀山城跡などの観光資源があります。しかしながら、亀山の名物等は古風なイメージが先行し、目新しさとは縁遠く、市内のサービスエリアや道の駅に地元のお土産を買いに行った際に他市の土産物品と比べ、インパクトが薄い印象です。

また、関宿、亀山城跡などの観光資源についても魅せ方を工夫すれば、もっと認知度や来訪者が増加するのではないかと考えます。

○取り組み方針

- ・キャッチコピーやキャラクターを設定・コラボして、名物・物産や観光資源を違う角度からアピールし、インパクトをもたせる。また、PRについてはアイデア1で示したSNS等を活用していく。
- ・新しい名物となり得る商品等の開発に向けて、研究を進める。